4 書く①

□1 **ザットウ**のなかで我が子を見失う。
□2 ミロのビーナスを美の**キョクチ**と見なす。（この上ないこと、きわみ）
□3 故人の人徳を慕う人の**チョウモン**が絶えない。（死者の遺族を訪ねること）
□4 寒波の到来で、路面が**トウケツ**する。（こおりつくこと）
□5 **ヒンパン**に病室を訪れ、勇気づける。（たびたび繰り返されるさま）
□6 敵の内情を**テイサツ**する。（ひそかに敵の様子をさぐること）
□7 自信**カジョウ**が身を滅ぼす。（多すぎるさま）
□8 植物の生育に適した**シツジュン**な気候。（しっけの多いさま）
□9 全集が**チクジ**刊行される。（順を追って）
□10 騒動の**カチュウ**にいる人物。（もめごとのただなか）
□11 自然主義文学の**ケイフ**について調べる。（物や人のつながり）
□12 **ゾウリ**の鼻緒が切れる。（わらなどで編んだはきもの）
□13 桃太郎が鬼を**セイバイ**する。（こらしめること）
□14 かつて**ボウセキ**でにぎわった町。（糸をつむぐこと、織物産業）

□15 **ブジョク**された若者が決闘を申し込む。（あなどりはずかしめること）
□16 **ジョウチョウ**なだけの話に閉口する。（くどくどとながいさま）
□17 悪の**オンショウ**を根絶やしにする。（よくない物事の発生しやすい環境）
□18 **ヒフ**の色の違いで差別してはならない。（体の表面をおおっているかわ）
□19 思いがけない困難に**ソウグウ**する。（不意に出会うこと）
□20 『嵐が丘』に描かれた**コウリョウ**たる風景。（あれはてものさびしいようす）
□21 仕事に**ボウサツ**される。（きわめていそがしいこと）
□22 見事に紅葉した**ケイコク**を歩く。（たに）
□23 人権**ヨウゴ**の必要性を訴える。（かばい守ること）
□24 能率を重んじる人は時間の**ロウヒ**を嫌う。（むだづかい）
□25 疲れのために動作が**カンマン**になる。（ゆるやかなさま）
□26 一刻の**ユウヨ**もならない。（実行の期日を延ばすこと）
□27 法の**アミ**をかいくぐって不正が行われる。（人や物をとらえるためにはりめぐらしたもの）
□28 モーツァルトは天才と**ショウ**された。（ほめたたえる）
□29 怒りで声を**フル**わせる。（小刻みに動かす）
□30 魚が**コ**げる臭いがする。（焼けて黒くなる）

雑踏　極致　弔問　凍結　頻繁　偵察　過剰　湿潤　逐次　渦中　系譜　草履　成敗　紡績

「踏」―訓ふ(む)
「極地」は「はての土地」、「局地」は「限られた範囲の土地」
「弔」―訓とむら(う)
「資産の凍結」は「資産の移動や使用を一定期間禁止すること」
「頻発」は「しきりに事が起こること」
「偵」には「様子をさぐる」という意味がある
「剰」には「あまる」という意味がある
「湿」―訓しめ(る)
「潤」―訓うるお(す)
類「順次」
「渦」―訓うず
「系」図という意味もある
「履」―訓おお(う)　くつがえ(す)
「喧嘩両成敗」は「けんかした者双方を処罰すること」
「紡績」と書かないようにしよう

侮辱　冗長　温床　皮膚　遭遇　荒涼　忙殺　渓谷　擁護　浪費　緩慢　猶予　網　称　震　焦

「侮」―訓あなど(る)
「冗漫」は「表現がだらだらとしてしまりのないこと」
「床」―訓とこ・ゆか
「膚」には「肌」「表面」という意味がある
「一隅」の「隅」や「偶然」の「偶」と混同しないように
「涼」―訓すず(しい)
「殺」は前の字の意味を強める働きをする場合がある
「渓」には「谷川」という意味がある
「抱擁」は「両腕で抱きかかえること」
類「乱費」(濫費)
「緩」―訓ゆる(い)
「猶」には「延ばす」という意味がある
音モウ　「網羅」など
「いっわって言う」という意味もある
音シン　「地震」など
「身を焦がす」は「恋慕の情に苦しむ」

4 書く②

□1 資格を有することが**ヒッス**の条件だ。（なくてはならないこと）
□2 **コクメイ**に記された日記を読む。（こまかく丹念なさま）
□3 王朝の**コウボウ**が描かれた長大な物語。（おこることとほろびること）
□4 人は生物に**ホウセツ**される存在にすぎない。（ある概念がより一般的な概念に含まれること）
□5 **カンレキ**を迎えた祖母のお祝いをする。（数え年の六十一歳）
□6 長年にわたる善行を**ショウヨウ**する。（ほめたたえること）
□7 剣道で全国**セイハ**を達成する。（競争者を負かすこと）
□8 英雄の偉業を**ライサン**する。（すばらしいと思ってほめたたえること）
□9 情け**ヨウシャ**なく借金を取り立てる。（手加減すること）
□10 **ロボウ**に咲くたんぽぽの花。（みちばた）
□11 **コウキュウ**の平和を祈念する。（いつまでも変わらずに続くこと）
□12 老人会の**イアン**旅行に出かける。（心をやすらかにすること）
□13 体が**ヒヘイ**しきっている。（つかれよわること）
□14 核兵器の**テッパイ**を訴える。（とりのぞきやめること）

□15 餅がのどにつまり**チッソク**しかかった。（いきがつまること）
□16 小競り合いから流血の**サンジ**となる。（むこうらしいできごと）
□17 彼女は市民運動の**ソセキ**を築いた人物だ。（ものごとの土台となるもの）
□18 講和条約を**テイケツ**する。（契約や条約をとりむすぶこと）
□19 卑怯な言い逃れをする者を**イッカツ**する。（大声でしかりつけること）
□20 政界と財界の**ユチャク**が問題となる。（不正に深くつながりあうこと）
□21 **ゲンシュク**な雰囲気の中で式が行われる。（おごそかで心がひきしまるさま）
□22 先生に**スイセン**状をいただく。（よいと思う人などをほかの人にすすめること）
□23 速乾性に優れた化学**センイ**を開発する。（織物の原料となる細い糸状の物質）
□24 **オウヘイ**な客にも丁寧な態度で接する。（ぶれいな態度をとるさま）
□25 台風のために家屋が**ソンカイ**する。（こわれること）
□26 レントゲンを**ショウシャ**する。（光線や放射線などを当てること）
□27 **ス**ける布地でドレスを作る。（物をとおして向こうのものが見える）
□28 後を**タク**すべきすばらしい人材。（あずける）
□29 とっさのことで返答に**キュウ**する。（いきづまる）
□30 **スミ**から**スミ**まで探したが見つからない。（はし）

必須　克明　興亡　包摂　還暦　称揚　制覇　礼賛　容赦　路傍　恒久　慰安　疲弊　撤廃

「ヒッシュ」とも読む
「克服」は「努力して困難に打ち勝つこと」
「興」―訓おこ(る)
「亡」―訓な(い)
「摂」には「枠の中におさめる」という意味がある
満六十年でうまれた年の干支にかえることから
「賞揚」とも書く
「覇者」は「力で天下を制した者」
「レイサン」とは読まないので注意しよう
「ゆるす」という意味もある
「傍」―訓かたわ(ら)
類「永久」
「慰」―訓なぐさ(める)
「貨幣」の「幣」と混同しないように
「徹底」の「徹」と混同しないように

室息　惨事　礎石　締結　一喝　癒着　厳粛　推薦　繊維　横柄　損壊　照射　透　託　窮　隅

「室」には「ふさがる」という意味がある
「惨」―訓みじ(め)
「礎」―訓いしずえ
「締」―訓し(める)
「結」―訓むす(ぶ)・ゆ(う)
「一括」は「ひとまとめにすること」
「分離しているべき皮膚などがけつごうする」という意味もある
「厳」「粛」ともに「おごそか」という意味がある
「薦」―訓すす(める)
「繊」には「細いすじ」という意味がある
「横」には「道理に従わない」という意味がある
「損」―訓そこ(なう)
「壊」―訓こわ(れる)
「照」―訓て(る)
「射」―訓い(る)
音トウ　「透明」など
「思いを歌に託す」は「歌の形を借りて思いを表す」
「生活に苦しむ」という意味もある
「隅に置けない」は「おもいのほか優れていてあなどれない」